

文部科学省特別経費プロジェクト（高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実）

（平成 23～25 年度）

教員養成の抜本的改革に向けた体系的・機動的な教育システムの開発

1 概要

学部と修士課程・専門職学位課程との接合（4 プラスアルファ）による新しい教員養成の在り方について、モデルカリキュラムの開発・試行及び機動的な教育システムの開発・実施により、教員の養成・継続教育を担う新しい教員養成大学の在り方を提案する。

- 全国の教員養成系大学・学部へ提言できるモデル及び本学の資源を活かした独自モデル（スーパープログラム）の構築・提案を行う。
- 専門免許（仮称）カリキュラムの検討においては、学校等の管理職を指導（スーパーバイズ）できる人材の養成も視野に入れる。
- 修士・専門職学位課程の教師教育スタンダード（案）の策定を行う。（現職教員）
- 修士・専門職学位課程のスタンダード（案）の策定を行う。（ストレート学生）
- 兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会等及び県内の教員養成課程を持つ複数大学との連携研究の枠組を組織化する。

（平成 23 年度の主な活動）

- ①在学院生、全修了生（約 6,500 人）にアンケート調査を実施し、集計・分析
- ②すでに教員養成を修士レベル化している国々を中心とした海外調査
- ③各都道府県の研修体系・内容の調査
- ④国内大学の教員養成カリキュラムの比較調査
- ⑤e ラーニング（同期型）の試行、文部科学省、県内公私立大学・教育委員会（他府県、県内）関係者との教員養成に関する協議

（平成 24 年度の主な活動）

- ①教員養成カリキュラムの改善に関する各大学の取組について情報収集・分析を行い、現在の教員養成カリキュラム改革の現状と課題を明確化
- ②教員養成制度改革の動向等を分析し、今後の教員養成カリキュラムに求められる諸要素を抽出
- ③前年度に実施したアンケートやインタビュー調査を分析し、本学大学院における教員養成の現状と課題を明確化。さらに分析結果をふまえ、今後の大学院における教員養成カリキュラムの在り方について大学教員に対するインタビュー調査を実施
- ④海外の教員養成制度に関する文献研究・現地調査を実施
- ⑤大学院レベルの「教員養成スタンダード」を策定
- ⑥教員養成スタンダードに基づき、小学校教員養成における 6 年一貫の教員養成モデルカリキュラ

ムを策定し、モデルカリキュラム全体の枠組みを構築

- ⑦教師教育プログラム推進協議会（広域教育委員会等部会）を開催
- ⑧一般学部卒業生に必要な支援等を明らかにするため、教員養成系大学・学部卒業生と一般大学教職課程卒業生の差異について、大学院担当教員に対するインタビュー調査を実施
- ⑨教育実習の現状と課題を明らかにするため、教育実習担当教員に対するインタビュー調査を実施
- ⑩各大学の教育実習の取組に関する情報収集・分析及び文献研究を実施
- ⑪新たな研修枠組みと能力証明プログラム策定のため、学校経営、特別支援教育、生徒指導等における教員の専門的能力を構造化し、学校において中核となる教員に求められる力量概念を整理・分析
- ⑫昨年度に引き続きライブ遠隔授業・会議システムを導入し、神戸サテライトの夜間クラスの授業1科目（全15回）を加東キャンパスにライブ配信する遠隔授業の試行を実施し、教員と受講生に対して適宜アンケートを実施

（平成25年度の活動予定）

1. 教員養成における「4プラスアルファ」のカリキュラム研究と具体化
 - （1）教員養成系大学・学部と開放性による一般大学教職課程における教員養成カリキュラムの比較研究と分析
 - ①教員養成カリキュラム比較研究調査（国内）
 - ②関係図書調査
 - （2）海外における教員養成制度の比較研究とカリキュラム研究
 - ①海外教員養成制度調査
 - ②海外文献調査
 - ③収集資料翻訳
 - ④海外研究者招聘
 - （3）学部と修士課程・教職大学院との接続によるモデルカリキュラムの開発
 - ①県教委との共同研究ワーキング
 - ②モデルカリキュラムの開発
2. 一般学部卒業生や現職教員等を対象とした機動的な教育システムの開発と試行
 - （1）一般学部卒業生等を対象とするカリキュラムの柔軟化と学習支援システムの検証
 - ①多様な学生を意識したカリキュラムに関する研究調査
 - ②カリキュラムの柔軟化に関するモデル案作成
 - ③学習支援システムの開発・検証
 - （3）教職キャリアの適時性に配慮した機動的な教育システムの検証
 - ①ライブ遠隔授業システムの検証
 - ②web会議システムの検証

3. 成果報告

- (1) シンポジウムの開催
- (2) 成果報告書の作成・配布

2 組織

